

氏名(生年月日)	スズキヒトエ 鈴木一恵
本籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第2293号
学位授与の日付	平成16年12月17日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	Role of mitogen-activated protein kinase in the regulation of transforming growth factor- β -induced fibronectin accumulation in cultured renal interstitial fibroblast (NRK細胞におけるTGF- β 依存性フィブロネクチン産生に対するMAPKの役割に関する研究)
主論文公表誌	Clinical and Experimental Nephrology 第8巻 第3号 188-195頁 2004年
論文審査委員	(主査)教授二瓶宏 (副査)教授江崎太一, 山口直人

論文内容の要旨

〔目的〕

腎間質の線維化は腎機能障害を規定する重要な因子で、transforming growth factor- β (TGF- β)や高血糖は、細胞外マトリックス(ECM)代謝に影響し線維化を促進する因子として知られている。

今回我々は、腎正常間質細胞(NRK細胞)を用い、TGF- β 刺激および高糖条件下で、ECMの1つであるfibronectin(FN)産生における細胞内シグナル伝達の検討を行った。

〔方法〕

NRK培養液は10%FCS加RPMI-1640を用い、いずれの実験も刺激前12時間は無血清とした。p38 MAPK阻害薬SB203580(10 μ M)、ERK阻害薬PD98059(30 μ M)は、TGF- β (1ng/ml)刺激の2時間前に添加した。培養液中の糖濃度は高糖30mM D-glucose、正常糖5.5mM D-glucoseとし24時間培養を行った。

Western blotに用いた1次抗体は抗ラットFN抗体、抗活性型ERK1/ERK2抗体、抗活性型p38 MAPK抗体、抗活性型JNK抗体で、HRP標識二次抗体と反応後に発色した。mRNAの発現はラットFN primerを用いた定量的RT-PCR法により測定した。

〔結果〕

TGF- β 刺激および高糖環境下ではFN産生はmRNA、蛋白とも増加し、いずれもp38阻害薬で完全抑制されたが、ERK阻害薬は高糖下では完全抑制、TGF- β 刺激では部分抑制だった。FN産生に関してはSmad経路、JNK経路は関与しなかった。高糖+TGF- β 刺激ではp38 MAPK活性のみ亢進が増強し、ERK1/ERK2では正常糖+TGF- β 刺激と著変なかった。

〔考察〕

NRK細胞におけるFN産生は糖濃度およびTGF- β に依存性で、p38 MAPKとERK1/ERK2の両経路の活性、特にp38経路の関与が大きいと考えられ、JNKおよびSmad経路への関与は少ないと考えられた。さらに高糖環境+TGF- β 刺激ではFN産生に対して相乗効果を認め、やはりp38 MAPK経路の関与が示唆された。

〔結論〕

NRK細胞において、高糖環境下、TGF- β 刺激下、高糖環境+TGF- β 刺激によるFN産生には、細胞内シグナル伝達系のMAPK経路のうちp38経路が重要であることが確認された。

論文審査の要旨

腎間質の線維化は腎機能障害の重要な因子である。腎正常間質細胞（NRK 細胞）を用いて、細胞外マトリックス（ECM）の一つである fibronectin (FN) の細胞内シグナル伝達に対する transforming growth factor- β (TGF- β) と高糖濃度の影響について検討した。

TGF- β 刺激および高糖下では FN 産生は mRNA, 蛋白とも増加し, p38 阻害薬で完全に抑制された。ERK 阻害薬では高糖下で完全に抑制され, TGF- β 刺激で部分的に抑制された。FN 産生に関しては Smad 経路と JNK 経路の関与は少なかった。高糖 + TGF- β 刺激では p38MAPK 活性のみが増強し, ERK1/ERK2 では正常糖 + TGF- β 刺激と著変なかった。

NRK 細胞においては、高糖濃度, TGF- β , 高糖濃度 + TGF- β 刺激による FN 産生に、細胞内シグナル伝達系の MAPK 経路のうち p38 経路が重要であることが示された。腎のみならず組織の線維化に係わる ECM 産生の機序の一部を明らかにした学問的に価値ある論文である。